

### 特別展「子ども/おもちゃの博覧会」に寄せて

埼玉県立歴史と民俗の博物館 副館長 水口由紀子

この秋の特別展「子ども/おもちゃの博覧会」、もうご覧いただきましたでしょうか？

江戸時代のおもちゃから現代のおもちゃまで、実に多種多様なおもちゃや関連する資料が展示されています。

私が実際に遊んだことがあるおもちゃ、自分の子どものために買ったことがあるおもちゃも展示されており、その当時のことを懐かしく思い出しました。このようにノスタルジックになった一方で、おもちゃにはその時代の社会や世相が大きく反映していることも感じることができました。

例えば、日清・日露戦争や太平洋戦争中のおもちゃは戦車や戦闘機、合図に使用するラッパなど戦争に関わるものが多く作られ、子どもの遊びも戦争色に染まっていたことです。

ところで、私の専門分野は「考古学」ですが、遺跡から「おもちゃ」が出土するケースは多くはありません。戦国時代以前の「おもちゃ」としては「独楽」、「羽子板」、「毬杖(ぎっちょう)」などを出土例として挙げることはできますが、その種類・数は限られています。「毬杖(ぎっちょう)」は長い柄のついた槌(つち)で木の毬(まり)を打ちあう正月を中心に行われた遊びで、絵巻物にもしばしば描かれました。

おもちゃが商品として生産され、流通し始めたのは江戸時代に入ってからのことです。この特別展では久喜市栗橋宿関連遺跡から出土した「おもちゃ」を展示していますが、これらの出土品は江戸時代に子ども専用のおもちゃがたくさん作られるようになったことを雄弁に物語っています。紙製や布製のおもちゃは土中に残りにくく、限定された素材のおもちゃに偏りがあるとはいえ、遺跡からの出土品は江戸時代の豊富なおもちゃの一端を私たちに伝えています。

埼玉県の江戸時代の「宿場」の遺跡から出土するおもちゃが、東京都内の江戸遺跡から出土するおもちゃとほぼ同じだということは考古学的に大きな発見でした。

さて、出土する「江戸時代のおもちゃ」にはどのような種類があるのでしょうか？

「ままごと道具」、「箱庭道具」、「人形」、「泥めんこ」などなど。それぞれがどのようなものであるのかは、展示室でゆっくり実物をご覧ください。

(「子ども/おもちゃの博覧会」は11月24日(日)まで開催されています)

会報「JUNO」は12月の発行をいたしません。ご了承ください。

次回の友の会理事サポーター会議：12月15日(日)10時より

## 今後のイベントスケジュール

\* 申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

ホームページ:<http://junosaitama.net/> ブログ:<http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- 11月20日 (水) 見学会「甲斐の国へいざ出陣! 開府500年を迎えた甲府市へ」 <前号で紹介>
- 11月29日 (金) まち歩き研究会「番外編 紅葉の高尾山・富士道へ」 <前号で紹介>
- 12月1日 (日) 古代文化を考える会「第3回 倭人(天氏)の渡来(天孫降臨)」 <今号で紹介>
- 12月15日 (日) 講演会「南鴻沼遺跡にみる縄文人のくらし」 <今号で紹介>
- 1月9日 (木) まち歩き研究会「新春 江戸八富士—4つの富士塚めぐり」 <今号で紹介>
- 1月29日 (水) プレミアム講座「埼玉にもいた『狩猟採集民』」 <次号で紹介>
- 2月22日 (土) 古道倶楽部「第33回古道を訪ねて 日光道中」 <次号で紹介>
- 2月23日 (日) 講演会「中世武士と馬」 <次号で紹介>

## 見学会「葛西城跡・小金城跡・国府台合戦跡」

令和元年(2019年)10月20日に開催 32名が参加

今回の見学会は、9月29日の講演会「葛西城を巡る上杉氏と北条氏の攻防」(前号参照)を受けて、実際に現地に行こうということで実現した見学会です。案内はもちろん講演会講師の谷口榮氏です。

当日は、天気も良く「テクノプラザかつしか」で谷口氏と合流し、葛西城址公園まで歩いて行きました。途中、曲がりくねった道にぶつかり、その道は昔、葛西城の堀跡でそれが埋め立てられて道になったとのこと、当時の葛西城の大きさに驚かされました。またかすかな高さ(微高地)を利用して城が築かれているというお話は、低地の中での城造りの苦労が垣間見えて、実地見学ならではの面白さを体験することができました。その後中世にできた新宿の街並みを車窓から眺め、柴又八幡宮の古墳見学、帝釈天参拝をして参道にある亀屋さんで昼食。デザートには草団子に葛餅、さらには店主からの差し入れでみたらし団子までいただき、おなかが団子一杯のお昼となりました。その後、江戸川堤防から矢切の渡しを眺めながら国府台合戦のお話をお聴きし、ここで谷口氏とお別れ、一路小金城址へと向かいました。

現地では松戸市立博物館友の会綿引副会長の案内で小金城址を見学、葛西城とは違い高台の先端に造られた城跡は障子堀・畝堀の跡が残されていて、戦国の城を偲ぶことができました。そののち戦国時代の過去帳が残されている古刹本土寺を見学。

次に、北条氏と里見氏との戦いの跡である国府台へと向かいました。今は里見公園として残されている国府台は江戸川からすぐに崖となり、川を渡って攻めることのできない要害の地としてあり、北方にある矢切の渡し(からめきの瀬)が両軍の主戦場になったことが手に取るように分かりました。

こうして一日を通してみると、江戸川を渡る矢切の渡し(からめきの瀬)が、低地の葛西領の北条軍と下総台地の国府台の里見軍とのぶつかる要衝の地であったということがよくわかる見学会でした。(齊藤文孝 記)



## 会の活動にご参加・ご協力ください

友の会は来年4月に役員改選を行います。今後の活動の継続と発展のためボランティアスタッフの募集を行っています。見学会の企画運営、講演会の企画運営、会報の編集作業は皆様の多様な意見を反映させる機会です。その他の作業も面白く、やりがいがあります。関心のある方はEメール、FAX、ホームページからの連絡フォームなどでご連絡願います。土日には博物館に受付を設置しています。

## ◆新しい視点で学ぶ日本の古代史◆

2019年(令和元年)12月1日(日)に「古代文化を考える会(第3回)」

《日時》2019年(令和元年)12月1日(日) 13時00分～16時00分

《場所》当館講堂 東武アーバンパークライン(東武野田線)大宮公園駅下車

《テーマ》「倭人(天氏)の渡来(天孫降臨)」

「天孫降臨」は神話ではない。紀元前200年ごろ朝鮮半島南部に高天原を建国した倭人天氏はそこで4代を過ごした後、紀元前120年ごろに福岡県西区に天孫降臨(一部は有明海から肥前南部に上陸)する。北部九州の「甕棺墓」、「銅剣・銅矛・銅戈」、「銅鏡」等の新しい文化は「天氏」が朝鮮半島からもたらしたものであるという。この「天孫降臨」により日本列島は「弥生時代中期」が始まる。古代史を学ぶ上で聞き逃すことのできないテーマです。

《講師》佃 収 先生

《費用》資料代として500円

《問い合わせ先》斉藤 048-853-6728

【初めて当研究会への参加を希望される方は、①「普通ハガキ」(「埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会」宛て「古代文化を考える会」への参加の他、氏名・住所・会員番号・電話番号、を明記)、または②「友の会ホームページ」を通してお申し込みください。入会費は不要ですが、資料代として都度500円をお願いしています。これまで参加されたことのある方(参加はしていないが申込済みの方含む)は連絡不要です。】

\* 当日の講演に出席される方は、「第1回講演」の資料「歴史研究のあり方」をご持参ください。

## ◆新春 江戸八富士—4つの富士塚めぐり◆

2019年(令和元年)1月9日(木)に「まち歩き研究会」(10月の再企画です)

《日時》2020年(令和2年)1月9日(木) 10時00分～15時00分頃

《集合》西武池袋線 池袋駅改札前(地下) 午前10時 集合 小雨開催

《費用》交通費は各自負担。保険と参加費用:300円

《概要》江戸八富士といわれた富士塚のなかで、これまでまち歩きで廻っていない4つを1日で廻ります。いずれも良好な保存状況の重要な文化財で、駅から徒歩で10分以内の場所です。

《行程》①江古田富士=江古田浅間神社(西武池袋線江古田駅より徒歩、国指定重要有形文化財)→②千駄ヶ谷富士(鳩森八幡神社=JR総武線千駄ヶ谷駅より徒歩、都指定重要有形文化財)神社付近で昼食休憩後、近くの新国立競技場も見学→③下谷坂本富士(小野照崎神社=JR鶯谷駅より徒歩、国指定重要有形文化財)古庚申塔も見学→④東京富士塚(十条富士=JR東十条駅より徒歩)

《申込・問合せ》①なるべく「ホームページ」の「申込フォーム」より送信フォームをお願いします。

②Eメール(つくい): pu8n-tki@asahi-net.or.jp ③連絡電話 090-1990-4807(つくい)

\* 10月18日に企画した「まち歩き(中止)」と同じ内容・コースです。

\* 11/29(金)の企画(高尾山)も受付中です。

### <友の会から>

#### ○文化財の拝観

ある見学会で、文化財を拝観する許可を管理している神社の宮司さんにお問い合わせしました。その際「結構ですが、必ず神社に参拝してから見学をしてください。礼儀を知らない方も増えていきます」とのご注意をいただきました。だいぶ不快な思いをしたことがあるようです。お寺や神社にある施設や文化財はいうまでもなく信仰の対象であり寺社の財産です。かならず参加者全員で本殿・本堂に参拝し、敬意を表してから目的の文化財などを拝見するように気をつけたいと思います。

#### ○往復はがき

友の会の講演会や見学会で「往復はがき」使用をお願いする場合があります。最近あまり使わないせいか、復信(返事)部分に発信者の住所氏名が書いていなかったり、往復の記入が逆だったりするケースがあるようです。友の会の受付はすべて会員役員のボランティアですから、手数を最小にするようご協力をお願いします。

# 南鴻沼遺跡にみる 縄文人のくらし

南鴻沼遺跡は、さいたま市中央区大戸1丁目に所在する縄文時代の遺跡です。遺跡は、低湿地に広がっていたため、従来台地上の遺跡から発見され難い、木製品、漆器、編組製品などが出土し、縄文人たちの暮らしぶりをみることができました。

講師 小倉 均 先生（岩槻郷土資料館学芸員）

日時 2019年（令和元年）12月15日（日）午後1時半～3時

（開場：午後1時）

場所 当館講堂 東武アーバンパークライン（東武野田線）

大宮公園駅下車徒歩5分

参加費 300円 当日は返信ハガキをお持ち下さい。

（Web申込の場合は登録番号のプリント）

参加のお申し込みは「往復はがき」に開催日・イベント名・住所・氏名・電話番号・

会員の方は会員番号を明記、返信面にも住所・氏名を記入の上、下記宛先まで。

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

\* 締切：2019年12月8日（日）定員（150名）を越えた場合はお断りすることもあります。

\* 「友の会ホームページ」の「申し込みフォーム」からも応募できます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会